

# 閑谷ライフステージ・せと 地域連携推進会議 議事録

2026/1/29 10:00~12:00

本日はお越しいただきありがとうございます。今回の地域連携推進会議は、地域の皆さまに弊グループホームの取り組みや、入居されている方々の様子を知っていただくことを目的としています。

## ◎自己紹介（参加者）

### ◎事業所の見学後に、事業所の概要説明 ※事業所パンフレットあり

当グループホームには2種類5棟の建物があります。

- ・2階建ての2棟：比較的自立されている方が生活。苦手な部分を職員がサポートしながら、自立を促しています。
- ・平屋の3棟：強度行動障害など、より支援が必要な方が生活。

構造もできる限り周囲に迷惑がかからないよう配慮していますが、完全ではないため、地域の理解を深めていただければと思っています。また、地域の専門家として社協さん、入居者とその家族の方にも参加いただきました。

日中活動では、地域の通所作業所へ通われて、内職作業やIPU大学のトイレ清掃など、利用者の得意を活かした仕事を行っています。大学の方々にも温かく接していただき、学生との交流も生まれています。家族の方からは、友人に恵まれ、作業にも前向きに取り組んでいる姿を喜んでいただいています。

通所先の日中活動は

- ・生産活動グループ
- ・一般就労を目指すグループ
- ・生活中心のグループ

の三つに分かれています。

今回の会議内容は記録し、個人名を伏せた形で法人ホームページにも掲載予定です。

## ◎住民票について

2階建てのはなみずき／すみれ棟では、住民票を移している方はほとんどいません。週末に自宅へ帰る方が多いためです。ただし、365日こちらで生活している数名は住民票を移しています。平屋3棟は半々で、ご家族の高齢化などを理由に住民票を移すケースもあります。

## ◎立地と地域との関係

このような一般住宅街の中にグループホームがあるのは珍しく、開設当初は地域への影響を心配してい

ました。多くのグループホームは街中でも住宅密集地ではなかったり、田んぼの中のような場所にあることが多いからです。近隣の理解が必要な面もありますが、地域の方々に支えられて運営できています。

#### ◎グループホームの現状と課題

最近では株式会社が運営するグループホームが増え、障害の種類（身体・精神・知的）が混在することでトラブルが起きやすいケースもあります。特性に応じた住み分けが十分にできていない施設もあるようです。2階建て2棟の方は、もともと関係性のある利用者が多く、ご家族の理解もあるため、大きなトラブルは比較的少ない状況です。

#### ◎高齢者向け認知症グループホームとの違いについて

高齢者の認知症グループホームと比べると、現在こちらに住まれている方々は、

- ・ 歩行・着替え・入浴などが自分でできる
- ・ 介護保険の要介護認定が出ない

という点で大きく異なります。そのため、介護度が高くない限り、高齢者向けグループホームには入居できません。ただし、中にはベッドの起き上がり補助が必要だったり、車椅子や全介助の入浴が必要な方もおり、そういったケースは高齢者施設に近い支援が必要になる可能性があります。

#### ◎将来的な移行について

もし今後、

- ・ 歩けなくなる
- ・ パーキンソン病などで身体機能が低下する
- ・ 介護度が上がる

といった状況になれば、介護保険施設への移行が検討されます。

ただ、現状では

- ・ 2階建てでエレベーターがない
- ・ 日中は介護職員が常駐していない

という理由から、重度の身体介護が必要になると生活が難しくなります。

#### ◎住所変更（住民票）について

ご家族としては「将来ここが最終的な居場所になるなら住民票を移したい」という思いがある一方で、

- ・ いつどの施設に移ることになるか分からない
- ・ 身体状況が変われば別の施設が必要になる

という不確実性があり、判断が難しい状況です。親御さんが元気なうちは自宅に住民票を置き、「最終的にここで暮らせると確信できた時に移したい」という考え方が多いようです。

#### ◎今後の受け皿について

現在、入所施設は高齢化が進んでおり、

- ・ 身体介護が必要になった方を受け入れる「しずたに」のような流れ
  - ・ 建物の老朽化による建て替え・移転
- などが検討されています。

将来的には、

- ・ 地域で暮らし続けられる住まい
  - ・ 身体状況に応じて段階的に移れる場所
- が整備されることが理想とされています。

#### ◎事故・ヒヤリハットについて

大きな事故はほとんどありませんが、平屋3棟では

- ・ 転倒による軽傷
  - ・ どこで転んだか分からないケース
  - ・ 薬の飲み忘れ
  - ・ 夜間にキッチン未施錠にしてしまったケースで、冷蔵庫内の物を食べられてしまった
- といったヒヤリハットが発生しています。廊下等の共用部分にはカメラがあり確認できますが、居室内は録画がないため、原因が特定できないこともあります。

#### ◎日常で起きやすいヒヤリハットについて

- ・ 冷蔵庫の飲み物がなくなる、鍵の閉め忘れ、洗剤の置きっぱなしなどの小さなトラブルが時々ある。
- ・ 洗剤を誤飲する可能性がある利用者もいるため、日頃から職員が注意している。
- ・ 大きな事故にはつなげていないが、日常的な見守りが重要。

#### ◎地域からの苦情について

- ・ 夜間の物音や、土日の早朝の騒音が特に気をつけるべき点。
- ・ 過去には、落ち葉が飛んでくる、話し声が大きいなどの苦情が一軒からあった。
- ・ 管理者が謝罪に伺ったが、それ以外の大きな苦情はほとんどない。

#### ◎安全対策について

- ・ 夜間に外へ出てしまうリスクがあり、道路に出ると危険なため、入口に鍵をつける案もあったが、閉鎖的になりすぎるため慎重に検討している。
- ・ 散歩中に迷って入ってくる地域の人もあるが、基本的には行き止まりが多く、外へ抜けにくい構造。

#### ◎外出の練習について

- ・ 365日生活している利用者の中には、買い物に行く練習をして一人で行けるようになった人もいる。
- ・ 最初は職員が同行し、お金の使い方や買いすぎ防止を練習した。
- ・ 心配な利用者は職員がいる時間帯に外出するよう調整している。
- ・ 近くの自販機までウォーキングする練習をしている人もいるが、休日にパジャマで出てしまうなどのハプニングもあった。

#### ◎地域との関係づくりについて

- 地域の方々とのコミュニケーションは、町内会や常会（じょうかい）を通じて行うのが最もスムーズ。
- 回覧板を回す担当者など、地域のキーパーソンとつながっておくことが大切。
- 利用者や職員がどんな活動をしているか地域に見えにくいため、理解促進のための取り組みが必要。

#### ◎今後の取り組み案（地域交流）

- 施設内で小さなイベント（たこ焼き会など）を開き、地域の方に気軽に来てもらう案が出ている。
- 「会議」という堅い形ではなく、イベントとして参加しやすい形にすることで、利用者の様子や作業内容を見てもらい、障害への理解を深めてもらう狙い。
- 見てもらうことで「何をするか分からない」という不安や偏見を減らす効果が期待できる。

#### ◎施設としての配慮と地域理解の重要性

- 住宅街の中にあるグループホームは珍しく、周囲への配慮が欠かせない。
- 防音対策など、施設側ができる限りの工夫をしていることを地域に知ってもらうことが大切。
- 「開かれたグループホーム」として、地域に理解してもらう姿勢が必要。

#### ◎地域との交流の必要性

- 偏見をなくすには、利用者の姿を実際に見てもらうことが一番効果的。
- たこ焼きイベントなど、小さな地域交流の場をつくることで、利用者の活動や人柄を知ってもらえる。
- 日中作業分場や法人本部機能も近くにあるため、地域とのつながりを深めやすい環境。

#### ◎地域清掃などへの参加について

- 地区では年に3~4回の清掃活動があり、利用者も参加している。
- 「暮らさせてもらっている場所だからこそ、できる範囲で地域に貢献するべき」という保護者の考えがある。
- 障害があるからといって免除するのではなく、できることを一緒に取り組むことで、地域との関係がより良くなる。

#### ◎利用者の力を活かすという考え方

- 利用者は指示があればできる作業も多く、地域清掃なども十分に参加できる。
- 職員だけでなく、利用者も巻き込んで地域活動に参加することが、共生の姿として望ましい。

#### ◎生活の場としての責任感（ご家族より）

- 利用者は週5日をここで過ごしており、「自分が住んでいる場所を自分たちで整える」という意識を持つことは大切。
- 障害の有無に関わらず、地域の一員として関わる姿勢が必要だという考え。

#### ◎利用者にも「地域の一員としての役割」を伝えるべきという考え

- ・ 障害があるからといって特別扱いするのではなく、「ここで暮らす以上、地域の一員としてできることをする」という姿勢を育てたい。
- ・ 楽しい活動だけでなく、「ここで生活するなら、こういうこともしなければいけない」ということを教えることも大切。
- ・ 親としても、利用者を“ぬくぬく”させるつもりではなく、できる範囲で地域活動に参加してほしいという思いがある。

#### ◎地域に姿を見せることの大切さ

- ・ 利用者が外で作業している姿を地域の人が見ることで、「この子たちも地域のために動いてくれている」と理解が深まる。
- ・ それが偏見を減らし、今後の関係を円滑にする助けになる。

#### ◎地域清掃への参加について

- ・ 地区では年に数回の清掃活動があり、時折、利用者も参加している。
- ・ ただし多くが土日開催で、利用者が自宅に帰っていることが多いため、参加が難しい場合もある。
- ・ 清掃日を事前に知らせてもらえれば、「その日はホームに泊まる」など調整して参加できる。
- ・ 実際に参加した時は、利用者が丁寧に作業し、とてもきれいにしてくれたこともある。

#### ◎地域との協力関係を深めるための提案

- ・ 清掃や溝掃除など、地域の作業がある日に合わせて、利用者も一緒に取り組むと良い。
- ・ そうすることで、「ホームの人たちも協力してくれている」という印象を地域に持ってもらえる。
- ・ 全員でなくても、少人数で参加する形でも十分効果がある。

#### ◎親としての願い

- ・ 利用者が地域の中で自然に受け入れられるように、できることは積極的に関わっていききたい。
- ・ 「暮らせてもらっている場所だからこそ、できる範囲で恩返しをする」という姿勢を大切にしたい。

#### ◎地域との関係づくりの大切さ

- ・ 地域清掃や行事に参加することで、近隣住民との人間関係が自然にできていく。
- ・ 「このグループホームは地域のために動いてくれている」という印象が生まれ、理解や信頼につながる。
- ・ 大きなイベントよりも、小さな取り組みをコツコツ続ける方が地域に受け入れられやすい。

#### ◎たこ焼きなどの小さな交流イベントの提案

- ・ クリーン作戦（地域清掃）の後に、たこ焼きを振る舞うなどの“ミニ交流”は効果的。
- ・ 「会議に来てください」ではなく、「よかったら寄ってください」という気軽な形が良い。

- ・ 親も協力できるため、地域との接点を増やしやすい。
- ・ ただし駐車場の問題があるため、規模は小さく調整する必要がある。

#### ◎高齢者向けグループホームについての話題

- ・ 以前は認知症グループホームを運営していたが、人手不足で事業売却した経緯がある。
- ・ 高齢者施設はどこも入居が難しく、働き手不足も深刻。
- ・ 将来的に高齢者向け施設を再び作る構想は現時点ではないが、地域のニーズとしては大きい。

#### ◎外国人スタッフの活躍

- ・ インドネシア出身の若いスタッフが2名働いており、非常に丁寧で真面目。
- ・ 介護業界全体でも外国人スタッフが増えており、重要な戦力になっている。

#### ◎地域連携の広がり

- ・ 施設単体ではなく、瀬戸町内の複数の障害福祉事業所（放課後等デイ、B型、移動支援など）とも連携し、地域イベントに参加する動きがある。
- ・ 販売など、他団体と協力して地域の催しに関わる計画も進んでいる。
- ・ 地域の困りごとを聞き、必要に応じて協力できる関係をつくりたいという思いがある。

#### ◎イベント実施に向けた課題

- ・ 建物は借地であり、家主がイベントに積極的ではないため、慎重に進める必要がある。
- ・ 理事長の後押しもあり、まずは小規模な取り組みから始める予定。

#### ◎最後のまとめ

- ・ 地域の理解を深めるためには、利用者が地域の中で活動する姿を見てもらうことが一番。
- ・ 小さなイベントや清掃活動への参加を通じて、地域との距離を縮めていきたい。
- ・ 今後も少しずつ取り組みを広げていく方針。

